

# 紙の辞書は不要か —デジタルデバイスによる語彙検索—

**講師：石黒 圭 氏**

国立国語研究所 教授 共同利用推進センター長/

総合研究大学院大学 教授 /一橋大学大学院 言語社会研究科 連携教授

開催日時：2024年2月24日（土）15:00 - 16:30

会場：上智大学四谷キャンパス 6号館 2階 201教室

対象：日本語・言語教育全般に関心のある教員および学生

参加方法：事前申込不要・参加費無料（学外からの参加も可能です。）

大学の教室で日本語を教えていると、紙の辞書を持ってくる学習者がいないことに気づく。聞くと、家にも紙の辞書はないらしい。パソコンやタブレットを持っていればよいほうで、スマホで十分と考える学習者も少なくない。しかし、スマホははたして紙の辞書の代わりになるだろうか。学習者は教室でいったいどんなサイトやアプリを使っているのだろうか。そうしたサイトやアプリなどの辞書リソースは、学習者が知りたいことへの答えをきちんと教えてくれるのだろうか。じつは、そうした実態について多くの日本語教師は疎い。そのため、学習者に「どんなサイトでどんなふうに調べたら私の知りたいことにたどり着けますか」と聞かれても、自信を持って答えられる教師は（講演者自身も含め）ほとんどいないのが実情ではないだろうか。

本講演では、中国・韓国・台湾・ベトナム・ドイツ・イギリス・日本国内で日本語を学ぶ111名の学習者が、スマホをはじめとするデジタルデバイスを用いてどのような検索行動を行い、知りたい情報にアクセスできているかどうかを調べた調査の結果を紹介する。その紹介をつうじて、現在の辞書リソースを日本語教室での指導に適切に生かす方法を検討する。

## 講演者紹介

略歴：一橋大学社会学部卒業。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程修了。1999年、一橋大学留学生教育センター（現・国際教育交流センター）にて16年間日本語教育に従事。2015年に国立国語研究所に移り、日本語教育の研究に集中するかたわら、連携先である一橋大学において大学院生の指導を行う。専門分野は、文章論・談話分析（日本語学）、作文教育・読解教育（日本語教育）で、「読む」「書く」「聞く」「話す」という四技能の言語処理過程全般を研究している。

著書は単著のみで25冊、共編著を合わせると45冊に及ぶ。代表作に『よくわかる文章表現の技術（全五巻）』明治書院、『文章は接続詞で決まる』『読む技術』『日本語は「空気」が決める』『語彙力を鍛える』『段落論』『コミュカは「副詞」で決まる』光文社、『論文・レポートの基本』日本実業出版社、『ていねいな文章大全—日本語の「伝わらない」を解決する108のヒント—』ダイヤモンド社がある。